

山持遺跡の発掘調査成果について

～ 唐風人物の描かれた古代の板絵が出土～

島根県教育庁埋蔵文化財調査センターでは、平成14年度から国道431号改築工事(東林木バイパス)に伴い出雲市にある山持遺跡の発掘調査を行っています。現在、発掘調査中の調査区(第6区)において、貴重な発見がありましたので、現地及び出土品についての説明会を開催します。

1 一般公開について

- (1) 期 日：平成18年10月8日(日) 午前10時～12時
- (2) 場 所：発掘調査事務所(出雲市里方町)
- (3) 概 要：現地及び発見された板絵の公開、説明の実施
- (4) 問い合わせ先

0853-20-1514(現地調査事務所)

0852-36-8608(埋蔵文化財調査センター)

2 発見された古代の板絵について

- (1) 時代：8世紀～9世紀初頭(奈良時代～平安時代)
一緒に出土した土器の年代等から推測
- (2) 出土点数：4点
- (3) 内容：4点とも幅8cm前後の板材に人物像を墨で描いている。
【1号】性別不明の人物の腰のあたりが描かれている。
【2号】唐風の服装の世俗女性と考えられる像が描かれている。
【3号】女性又は若年の男性と思われる像が描かれている。
【4号】円形の頭高のある吉祥天女と考えられる像が描かれている。

3 発見の意義

- (1) 世俗女性像を描いた出土事例で、平安時代初期以前に遡るものは高松塚古墳壁画を除いて類例がなく貴重な発見。
- (2) 唐風の服装をした人物が地方にも存在していた可能性が想定され、当時の風俗を考える上で、貴重な発見。
- (3) 4号像は吉祥天女と考えられ、これによって地方に古代仏教が広まっていった様子が、具体的なかたちで分かる極めて貴重な資料となる。

